



2017.7.21

サポートの方法 (1)

前回予告したようにサポートの方法について何回か続けて解説したいと思います。主として "Partnership Bidding at Bridge " by Andrew Robson and Oliver Segal に基づくものです。この本の内容は、日本では実践している人はまだ少数ですが、私自身使ってみて極めて判りやすく、競り合いビッドの正確性が格段に増したと感じています。

まず競り合いになった時あるいはなりそうな時の基本的な考え方から解説しておきましょう。

- (1) ラストゲスを自分サイドでしないようにすること
- (2) サポートがあったら後回しにせずすぐにそれを示すこと
- (3) サポートでは点数を後回しにしてもハンドタイプを優先して示すこと

もっと詳しく解説すると

■ラストゲスを自分達サイドでしないようにすること

ラストゲスとは、自分達サイドも相手サイドももうこれ以上のレベルには行かないというぎりぎりのところでのコールをするかどうかの最終判断のことです。良くあるケースですが、自分たちがスペードオーバーコールしたとき例えば

- (1 H) - 1 S - (2 H) - 2 S
- (3 H) - 3 S - (4 H) - ?

となって。ここでパスするのか4 S といふのかあるいはダブルするのか最終的な判断を迫られます。これがラストゲスです。こうなってくる心理状態を推測すると、パートナーのスペードオーバーコールにサポートがあるがゲームビッドするような強さはないとき、2 S で買えればいいんだけどなと思って、まず2 S と言ったところ、相手が3 H と言ってきたので仕方なく3 S と言います。すると今度は相手が4 H まで競ってきました。ここで4 S と競るかどうかの判断=ラストゲスをする羽目になります。こうなってきたことの問題点は、相手側=オープンした側の問題はさておき、3 S まで付き合うつもりがある時にまず2 S と小出しにした点にあります。小出しにしたので相手もそれ相応に付き合ってきて、最終判断をこちらでする羽目になりました。どんな名人でも最終判断の間違ひはある割合で不可避です。これが競り合った時には、自分が到達するつものあるレベルまで相手に先んじて一気に上げなさい (=プリエンプティブです)、「分割払い」しないで「一括払い」しなさいと言っている根本原理になっています。こうすることでラストゲス=最終判断が相手側に回るからです。相手側に押しつけることで間違える可能性がでるのは自分たちではなく相手の方になります。

このケースですと、

- (1 H) - 1 S - (2 H) - 3 S
- ?

となってパスするか4 H といふのかダブルするのか最終判断=ラストゲスが相手側になり

ます。またこの3 S はプリエンプティブレイズで (今ほとんどの人が使っています) 点数ではなくトータルトリック法則での評価に基づいています。つまり4枚サポート、ということは5-4 フィットはしたので5+4=9 トリックまで上がってよいということになります。もちろん3 S がダウンすることもあります、そのときは相手のハートコントラクトが10トリック以上取れることが多いのです。この3 S を「こちらからわざわざダウンするコントラクトに自分から先に行くことはないじゃない」と非難する人もいます。数十回か百回に1回損することもあり得ますが、全体の半分以上の確率で得ることが多いと思ってください。このラストゲスを相手に押しつけるという戦略が競り合いを制するポイントです。

■サポートがあったら後回しにせずすぐにそれを示すこと

を持っていて、パートナーが1 H とオープンしたところ、自分の右手が1 S とオーバーコールしてきました。まああのダイヤモンドがあって、サポートがあるというハンドです。まずダイヤモンドを示しておいてからハートをサポートした方が、自分のハンド内容をパートナーに伝えられると考えるとナチュラルの2 D といふと、左がパスしたときはうまく行きますが、不愉快なことに (たぶんそうでしょうが) 左が3 S あるいは4 S とレイズしてくるでしょう。そのおかげでラストゲスがこちらに回ってしまいました。3 S と言われた場合、4 H といふれば1 ダウンするかもしれませんが、だからといってパスと言えどもこちらが4 H をらくらくメークするハンドだったということになりかねません。ラストゲスがこちらになったせいです。こうしないで、3 H とレイズしたとしましょう (3 H といふレイズがこのハンドかを表現しているかどうかは別としてですが)。左手に3 S と競られても、パートナーが遙かに判断しやすくなるのです。

- | | | |
|---------|---------|---|
| a) | b) | もし a) を持っていたらダブルだろうし、b) を持っていたら4 H だろう。もしパスならこちらでも堂々とパスできる。 |
| ♠ QJ2 | ♠ 872 | |
| ♥ A8763 | ♥ AK863 | |
| ♦ K3 | ♦ K5 | |
| ♣ KJ6 | ♣ A62 | |

これは先にサポートしたことの利点だといえます。つまりサポートを後回しにするとラストゲスがこちらに回ってしまふことがよくあるということです。